

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立第三藤田小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒701-0221
岡山市南区藤田1757

E-mail : fujita3s@city-okayama.ed.jp

Website : http://www.city-okayama.ed.jp/~fujita3s/

児童生徒数：男子 72 名 女子 63 名 合計 135 名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (地域 農業 福祉)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. 本校のESDの特徴

藤田地区コミュニティスクールスローガンである「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」に近づくために、研究テーマを「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成」と設定し、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発を進めてきた。各学年の単元を、大きく2つのプロジェクトと捉え、縦の系統を考えて6年間のプロジェクトをデザインした。(図1) 地域・食・農業について学習していく中で、地域の人々の思いや生き方に学び、自分の生活を振り返る「宝物プロジェクト」と、環境・福祉・国際理解について学習することで、幸せについて考え、今の自分にできることを実践していこうとする「幸せプロジェクト」を設定した。それら2つのプロジェクトを通して、様々なつながりの中から自分を見つめ直し、自分の生き方を考えていく「いのちの学習」を構築し活動を進めている。

2. ユネスコスクールとしての活動・全体計画

第三藤田小学校6年間のプロジェクトデザイン



【図1 第三藤田小プロジェクトデザイン】

(3年生)「地域の宝物を探す」活動を通して、自分たちの住む藤田には農作物を育てる名人がいることや、藤田でとれた農作物を加工してその良さを広めようと努力している地域の方々を知り、地域に愛着と尊敬の念をもつことをねらっている。

(4年生)「やさしいまちづくり」というテーマで、自分たちの暮らす藤田を見直す活動をしている。様々な体験活動に参加することで、前半は自分たちにできる環境保全活動を考え実践し、後半は様々な立場の方とふれあうことで、より身近な問題として捉えることができるようになっている。

(5年生)「藤田に農業は必要か？」というテーマで、藤田の米作りについて調べていく中で、日本の農業問題について考えたり、自分たちの住む藤田の未来について考えたりした。農家へのインタビューや農業についての意識調査、バケツ稲による比較実験などの体験活動を大切にし、子どもたち自身が納得した考えをもとに提案書を書くことができた。農業後継者クラブの方と意見交換をすることで、農家の方の思いにふれたり、農業は農家の人だけでなく、消費する自分たちを始め、すべての人や環境ともつながっていることに気づいたりすることができた。

3. 特徴的な活動事例の紹介

6年生 活動名 『幸せって何?』

ふ
れ
る

①世界の現状について知る



ハートオブゴールドの方によるカンボジアの話

つ
か
む

②自分たちにできることをやってみよう



1回目の物資支援活動

ニューチャイルドケアセンターの子どもたちとプレゼント交換

追
求
す
る

③課題をもつ（もっと喜んでもらえる活動を考えよう）



ニューチャイルドケアセンターの子どもたちとスカイプで交流

考えた支援活動についてカンボジアのチェトラ先生にスカイプで相談

活
か
す

④自分を振り返る



ハートオブゴールドの方から、支援活動の報告会

4. 本年度の成果と課題

○成果

- ・学校としての成長

中学校区で共通の児童像を設定し、共通理解しながら研究を進めているので、縦と横の連携を意識した学習ができています。

- ・子どもたちの成長

これまで身近でありながらあまり興味のなかった自分たちの地域を見直したり、遠い存在だと思っていた問題を身近に感じたりする中で、自分の生活を振り返ったり、今の自分にできることを考えたりすることができるようになってきた。

○課題

E S Dカレンダーを作成し、他教科との関連を意識して進めているが、思考力や表現力など各教科で培うべき力が不十分であり、活用するには至っていない。E S Dカレンダーをより充実させ、見通しをもってクロスカリキュラムに取り組むことで、学力向上に向けた研究を進めていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）